

代官小堀数馬証状（折紙）

享保十三申年日光 御社參被為濟候節、十津川郷其節支配之御代宮石川伝兵衛南都御役所江、十津川郷村々惣代之もの式人罷出、御酒一樽五升入・塩鯛一掛指上恐悦申上候例を以、当年 御社參被為濟候為恐悦、当御役所江惣代之もの罷出、御酒・塩鯛指上度旨願出^ニ付、先例相糺御勘定所江達伺之上、

御酒 一樽五升入、

塩鯛 一掛

右之通指上、郷中為惣代高津村庄屋高田又右衛門、田良原村庄屋深瀬勘右衛門当御役所江罷出、恐悦申上候、尤右御酒・塩鯛者、当御役所より江戸表江相廻、御賄所江相渡筈^ニ候、右恐悦申上候趣、後代^ニ至候而も冥加を違失不致ためを以、証書相願^ニ付、右之趣書付遣之者也、

安永五申

十二月十八日

小堀数馬^印

大和国吉野郡十津川郷

五拾九ヶ村之

ものへ